

# 沿岸域における魚種変動に関する定点調査

(沿岸漁場開発調査)

田中伸和・藤川裕司・若林英人

## 1 研究目的

重要魚種の資源変動を予測する技術開発の基礎資料および生物環境のモニタリング資料とするため、一定海域における魚種組成を調査する。

## 2 研究方法

江津市敬川町地先沖の水深 100m、80m、60mに定線を設定し、試験船「明風」によりトロール網の操業を行った。操業は4月、7月、8月に実施したが、4月を除いて80m定線を欠測した。曳網時間は水深60mでは20分間、80mと100mでは1時間である。あわせて、各操業点においてSTD（アレック電子）により水温・塩分を観測した。漁獲物は種類ごとに体長、個体数、漁獲重量を測定した。

## 3 研究結果

採集生物の月別・定線別の採集量と測定結果、および操業記録を別添資料に示した。採集された魚類の出現状況の概要は表1のとおりであった。

表1 月別・定線別出現種類数と主な魚類上位5種

定線		60m	80m	100m	全定線
月					
4月	出現種類数	27種類	36種類	42種類	58種類
	主な魚類	<b>オヒイサキ</b> 、チダイ、マイソ、テッポウウイシモチ、チカメダ、ルマガレイ	<b>オヒイサキ</b> 、タマガンゾウヒラメ、ヒメジ、ナツハリゴチ、マイソ	<b>オヒイサキ</b> 、アネサゴチ、ヒメジ、ナツハリゴチ、タマガンゾウヒラメ	<b>オヒイサキ</b> 、ヒメジ、タマガンゾウヒラメ、ナツハリゴチ、テッポウウイシモチ
7月	出現種類数	43種類		41種類	63種類
	主な魚類	<b>オヒイサキ</b> 、タルマガレイ、ヒメダ、ルマガレイ、タマガンゾウヒラメ、テッポウウイシモチ		クラカトサキス、アネサゴチ、タマガンゾウヒラメ、オヒイサキ、テッポウウイシモチ	<b>オヒイサキ</b> 、タマガンゾウヒラメ、テッポウウイシモチ、タルマガレイ、クラカトサキス
8月	出現種類数	63種類		42種類	58種類
	主な魚類	<b>オヒイサキ</b> 、カイワリ、タマガンゾウヒラメ、ヒメダ、ルマガレイ、トゲカガシラ		<b>カイワリ</b> 、ヒメジ、アネサゴチ、クラカトサキス、和ヌメリ	<b>オヒイサキ</b> 、カイワリ、ヒメジ、アネサゴチ、クラカトサキス

太字は曳網距離 100m あたりの採集量が 10 個体以上の魚種